

### 3.医療関連計画

#### (1) 医療情報システム整備計画

##### 1) 基本方針

- ・現在、レセプトコンピューター<sup>※24</sup>を除く電子カルテ<sup>※25</sup>やオーダーリングシステム<sup>※26</sup>などの医療情報システムは導入していませんが、この改築を契機に「施設の規模・業務の内容から当病院にとって必要となるシステムの導入」を検討します。
- ・医療情報システムの導入による利点は「患者情報の共有による情報の一元化・受付業務の簡略化と伝票搬送の軽減・待ち時間の短縮・データ蓄積による医療の質の向上」ですが、同時に個人情報に関するデータの管理の重要性が高まります。
- ・システムは使用する職員全員が使いこなさなければならないこと、初期投資だけでなくソフトの更新の度に多額の費用が必要なことなどの課題も多いので、システム導入に向けて、基本設計段階で関係者間の十分な話し合いを行います。
- ・高度医療又は専門性の高い医療機関（3次医療施設又は大学病院等）などとの画像伝送システム・遠隔医療システムの共有による緊急時対応を検討します。

##### 2) 導入を検討する範囲

次のシステムの導入を検討します。

###### ①電子カルテシステム

###### i.共通・診察記事・看護機能

- ・記事・フローシート<sup>※27</sup>・文書作詞機能・カードックス<sup>※28</sup>・看護記録・看護ケア・看護計画・看護管理 他

###### ii.オーダーリング機能

- ・医師が行う各部署への診療情報の指示を伝達し、その後の検査結果・薬の処方・会計事務等へ繋がります。

###### ②その他

###### i.遠隔医療システム

###### ii.画像保存通信システム（PACS）

###### iii.健診システム など

##### 3) 検討の進め方

- ・現状の把握（「システム導入検討委員会（仮称）」の設置）
- ・システムに関する学習会及び類似規模での導入施設の視察
- ・各種システムのデモンストレーション実施
- ・メーカー別システムの比較検討（機能・仕様・費用・その他（既存システムとの適合性））
- ・部門別のシステム導入の可否と導入システムの選定
- ・予算規模の算定（導入費用の見積もり）

#### (2) 物品・物流システム計画

##### 1) 基本方針

- ・院内の物品・物流管理を一元化し、在庫管理・購買管理・消費管理を適正に実施し、医療材料費等の効率性を高め縮減を図ります。
- ・効率性を高める手段として物品管理システム<sup>※29</sup>の導入を検討します。
- ・使用状況を適切に管理し、請求漏れを防止します。
- ・経営管理に必要な医療材料等の情報を随時把握し、経営改善策へと繋がります。

##### 2) 具体的な検討方策

- 
- ・使用状況の管理方式をバーコードの利用を含め検討します。
  - ・適切な管理方式(定数補充方式など)を検討します。
  - ・保管管理の適正化と管理・搬送業務の民間委託を検討します。

### (3) 医療機器整備計画

#### 1) 整備の基本的な考え方

- ・機器の導入にあたっては現有機器の継続使用を前提に、新規購入が必要な医療機器は緊急性・費用対効果などを検討して整備します。
- ・後年度での負担軽減を図る上でも、施設整備時の機器導入費用に上限額を設け、初期投資額が多大にならないようできる限り削減します。
- ・機種・価格などに応じてリースによる機器導入も検討します。
- ・近年購入したばかりの高額医療機器（CT、一般撮影機器、X線TV）については、移転して再利用します。
- ・改築後の経営状況等を勘案し、整備計画を弾力的に運用しながら機器整備を進め、支出の平準化に努めます。